

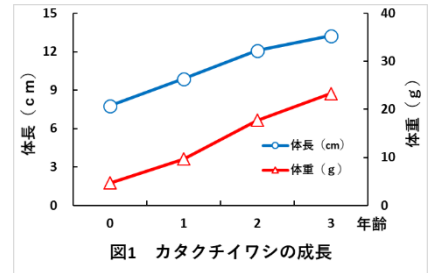
カタクチイワシ (せぐろいわし)



生態的特徴等

【生態】

日本周辺に広く分布し、太平洋側では夏季に千島列島周辺まで回遊する沖合回遊群と沿岸域周辺にとどまる沿岸回遊群がいると考えられている。沖合回遊群は秋から冬にかけて三陸～房総海域を南下する。産卵期は冬を除く周年（盛期は4～8月）で、太平洋沿岸の各地で産卵する。主に動物プランクトンを食べて成長し、1歳で成熟、寿命は4歳程度である。成長に伴って呼び名が変わり、シラス（2.5～3.5 cm）、カエリ（4～5 cm）、ジャミセグロ（6～7 cm）、中セグロ（8～9 cm）、ゴボウ（10～11 cm）、大ゴボウ（12 cm～）と呼ばれる（図1）。



【漁法と盛漁期】

茨城県では、主にまき網で夏～秋にジャミセグロ～中セグロが漁獲され、冬～春にゴボウ～大ゴボウが漁獲される。シラスは船曳網で春～秋に漁獲される。

【利用】

カエリ～中セグロは煮干しの原料、ゴボウ～大ゴボウは目刺しや桜干しなどに加工される。生後1～2ヶ月のシラスはシラス干しの原料となっている。

資源水準は中位、動向は増加傾向

（漁獲量）千葉県から青森県沖で操業するまき網の漁獲量は、平成年代に入って急増し、H10～16年は10～20万トンで推移したが、その後急激に減少してH27年以降は1万トンを下回っており、R6年は0.9万トンとなっている（図2）。

（水準と動向）国の資源評価（R6年度）によると、親魚量はH10年代後半から減少傾向にあったが、R1以降若干の増加傾向でR6年は「目標管理基準を下回り、限界管理基準を上回る」。親魚量の動向は直近5年間（2020～2024（R2～R6）年）の推移から「増加」とされている（図3）。

水準



（国）

動向



（国）

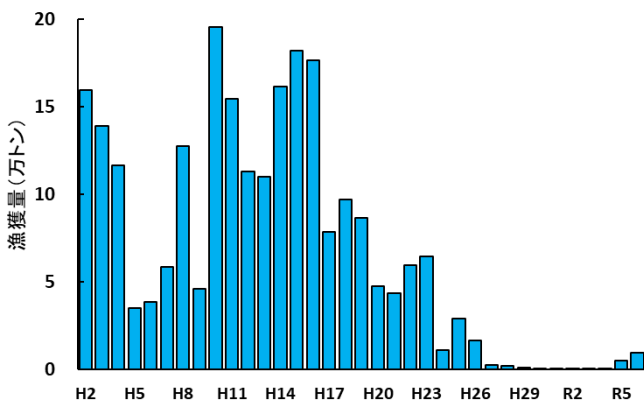


図2 カタクチイワシ漁獲量^{※1}の推移

※1 千葉県から青森県沖で操業するまき網の漁獲量で、北部太平洋まき網漁業協同組合連合会の集計値

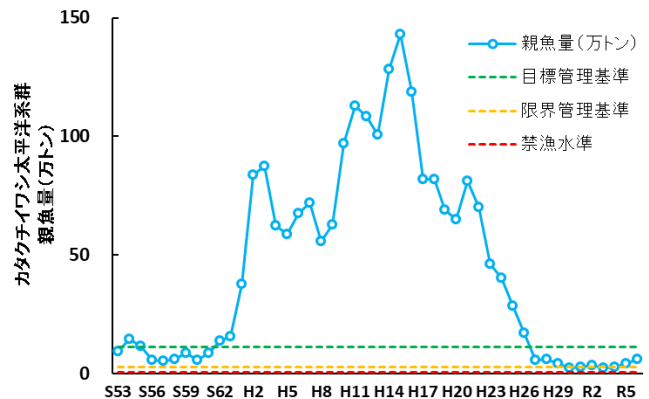


図3 カタクチイワシ太平洋系群の親魚量の推移^{※2}

※2 新たな資源管理 (MSY) に基づく管理基準値

【全国の漁獲動向】

- ・茨城県の漁獲量は全国第24位、1位は千葉県、2位は広島県、3位三重県（R6 漁業・養殖業生産統計）

評価期間: 令和6年1月～12月 更新日: 令和8年3月19日

引用: 木下順二・安田十也・渡井幹雄・日野晴彦・木皿祐雅・塚田秋葉・上村泰洋・河野偉昌・高橋正知(2025) 令和7(2025)年度カタクチイワシ太平洋系群の資源評価. 我が国周辺水域の漁業資源評価. 水産庁・水産研究・教育機構, 東京, 94pp, https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries_resources/meeting/stock_assessment_meeting/2025/files/sa2025-sc09/fra-sa2025-sc09-01.pdf.